

飛鳥 ASUKA KAWARABAN
かわら版

2022年
11月

晩秋号

第209号

発行所 株式会社 飛鳥 出版室

発行人 永野 正将

ADD: 〒780-0945 高知市本宮町65-6

TEL: 088-850-0588

MAIL: info@asuka-net.jp



ありがとう



連載ページ

わが家の太郎 ⁵⁶	永野雅子	02
新聞余話 ¹⁹	大澤重人	04
おのころじま奮染記 27	田島征彦	05
いろいろかいろ その三十五	安藝真一	06
キルギスタンからコンニチハ ⁸⁵	氏原名美	07

「夜間中学のこと」をもっと知ってほしい

.....	細川英輔	08
ちーくんの釣り日記・功労賞		09
出版物紹介		10
広告		12

わが家の太郎

56



太郎、
ありがとう！

永野 雅子

太郎が逝って1ヶ月半、わかつているのに口癖になっている。息子も帰ってくると、「自動的に太郎の部屋へ足が向く。居らんのに」

「ただいまー、太郎！」

会社から帰宅して、いつもの言葉が出る。朝、家を出るとき、「行ってきます。お父さん太郎をお願いします」

7月に十七才の誕生日を元気に迎えて、相変わらずのマイペースに辟易しながら過ごしていたが、8月に入って食事もとらず、歩くことも出来なくなつて病院に連れて行くと、先生が「太郎くん、大往生です。この歳になつて大きな病気もせず、痛いところもないようなので、静かに逝かせてやってください。奥さんがんばりましたね」涙があふれた。

息子たちに知らせると、それぞれが家族でお別れに来てくれた。

その夜、私の隣で眠るように旅立った。8月16日送り火の日、皆で「お父さんが迎えに来たね」



思い起こせば17年前、夫の友人から譲り受け、やんちゃ極まりない太郎に振り回されたり、癒されたり、何より大病から氣力を失いかけていた夫にとって「太郎 命」の存在だった。

に傘寿を迎えたのも、日々の暮らしの中に太郎という存在があつて、それに責任を持たなければならぬ張りがあつたことかもしれない。

今は、家の中や庭のフェンスや網を取り払つてスムーズに行き来できるようになり、介護から解放されて「あー、やれやれ」と思いながら過ごしているが、太郎に替わる張りを見つけない

今回、日本印刷産業連合会から賞をいただいて東京に行ったとき、「太郎くん、元氣ですか」と声をかけられてびっくり！

帰つて来れば「太郎くんも喜んでるでしょうね」などと言われる。考えてみれば、こうして元氣

太郎、たくさんの思い出を
ありがとう！



永野 雅子
ながの まさこ
株式会社 飛鳥
常務取締役

夫、和宏と共に写真植字業を創業。有限会社四国写植、のちに株式会社飛鳥へ社名変更すると共に、会社の発展を陰で支える。読者の要望に応じて「わが家の太郎」の執筆を続け、現在に至る。



①～③⑨ + 書き下ろし
「わが家の太郎」
A判変形 並製本 148頁
定価 1,320円 (税込)

2012年10月1日午前8時ごろ、記者から落ち着いた声で支局に電話が入りました。米軍岩国基地（山口県岩国市）の敷地外で、米海兵隊の垂直離着陸輸送機「オスプレイ」が飛び立つのを監視していたのです。配備先の普天間飛行場（沖縄県）へ向かったものとみられます。すぐに本社に連絡します。締切が早い夕刊は時間との勝負です。

墜落死亡事故が多発していたオーストレイが初めて国内に配備されたときのことです。反発が強かったためか、沖縄には直接搬入されず、岩国基地に陸揚げし、試験飛行を経てからの移動となりました。私は岩国基地を受け持つ支局のデスクでした。

数分後、同じ記者から連絡が。「2機がなぜか帰ってきました」
今度は息せき切った声でした。
改めて本社に電話です。結局、
普天間行きの第1便が離陸した
のは約50分後。当初とは別の2
機でした。

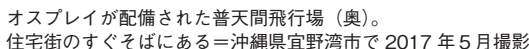
オスプレイの取材は記者泣かせです。ほとんど情報公開されないのです。この日の飛行も「1



日以降」と防衛省が発表していたものの、時間は未定。天候次第で翌日になるかもしれない。無駄を承知で、日の出前から記者2人を張り付け

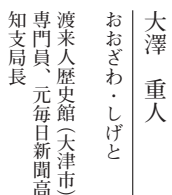
本来の取材は、こうやって記者の目で現場を確認することから始まります。プロ野球の観戦記事などはまさにそうです。しかしながら、すべての現場を見ることは物理的に不可能です。そのため多くの記事は、官公庁や学校、企業など当事者の発表を元に書かれます。非常に効率的です。しかし、そこにあぐらをかいていていいのでしょうか。極端な場合、ウソをつかれている可能性だってあるのです。

『特定の団体（世界平和統一家庭連合＝旧統一教会）に恨みがあり、安倍元首相がこれとつながりがある」と思い込んで犯行に及んだ』と供述している」



安倍晋三元首相の銃撃事件直後の記者会見で、奈良県警はこう発

表しました。これを元に、マスコミは「元首相が団体と関係がある」と思い込んで「な」と報じました。記事を読んだ瞬間、「思い込んで」はないだろう」と感じました。安倍氏が昨年9月に旧統一教会の関連団体主催の集会にビデオメッセージを寄せていたことはネット



メディアですでに報じられ、その関係は一目瞭然だったからです。「思い込んで」の5文字があることで、旧統一教会と関係がまるでないのに、容疑者が勝手に誤解したという印象が強まっています。事件直後は容疑者への直接取材はできず、県警の発表に頼るのは当然ですが、あまりにも無批判過ぎはしないでしょうか。

その後の調べで、容疑者はこのビデオメッセージを見た上で、事件に及んだことがわかりました。旧統一教会側の広告塔の役割を果たしていることを認識しながら、「関係があると思い込んだ」と遠慮がちに供述したのでしょうか。

国の統計ですら、不正や改ざんが行われる時代です。自分の目で確認できていない以上、発表を鵜呑みにしないことから取材は始まります。自戒を込めて。

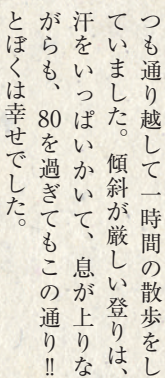
近著に『咲くや　むくげの花―朝鮮少女の
想い継いで』（富山房インターナショナル刊）

田島征彦

9月11日の夜のことでした。9時からの「日曜美術館」を見終って、トイレへ行こうと立ち上って、一歩踏み出したその時、身体が床に崩れ落ち立ち上れません。歩けないのです。妻のヒデオが、もらい物の杖を玄関から持って来てくれました。杖を突いてみたけど、立ち上ることができません。絶望です。突然に生まれて初めて襲ってきた絶望でした。

「わたし面倒見られんからね、施設へはいらんとアカンなあ」変に嬉しそうな声を上げるのでした。

22年前、おのころじまへ転居して、一番の楽しみは、島のだんだん畑を降りたり登ったりの散歩でした。特に、この10年ほどは、愛犬ボンと一緒に、集落を2つも3



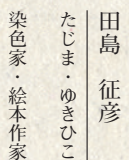
には我慢できず、またも、厳しい鍛錬の散歩に戻してしまいました。それが間違いだったのです。

とどのつまりは病院の整形外科に通うことになってしまいました。

歩き過ぎたために、膝の軟骨が擦り減って、骨と骨が擦り合うのだと診断されました。手術をして人工の軟骨をいれるのが良いとのことでしたが、手術を決めては、迷った方、手術しない方もいてそのままだになりました。足の筋肉を冷やすのが良いという町の整体師？に通ったりして、

段の下でしゃがみこんだこともありました。

しかし、なんとか工夫しながら、回復していき、朝の短い散歩で快適に近い毎日を取り返してきたのに、



京都で画廊廻りをして、少し歩き過ぎたのが、9月11日の夜でした。

翌日、前に膝の水を抜いてもらったクリニックへ出かけて、腫れた膝から多量の水を抜いてもらうと、すっかり痛みが取れました。それどころか、元気に散歩していた時の足へ戻ったのです。健康な足になりました。都会へ出て、階段を避けてエスカレーターやエレベーターを捜す必要がなくなったのです。

そんな健康な足も、すぐ腫れてきて、クリニックで水抜きです。クリニックの先生に、何故、水が溜まるのか、丁寧に説明してもらって、今後は無理をしない生活をしてもらいます。

大阪府堺市出身。少年時代を高知県で過ごし、京都市立美術大学染織工芸科専攻科修了。一九七八年『じごくのそうべえ』で第一回絵本にっぽん賞。二〇一五年『ふしぎなともだち』で第二十回日本絵本大賞。沖縄の子どもたちを主人公にした、やんばるもの少年の次には沖縄戦を題材に、子どもたちに、戦争のことを、平和の大切さを伝える絵本『なきむしせいとく』が最新作。

※「おのころじま」は淡路島の古代のよび名



その三十五

月行き、 日も進む

安藝眞一

しなべての共通点は、誠に迷惑な災禍」といったもので、ただ、うつろしく暮らしの会話を抑え込んで陰気をまき散らす。そんな腹立たしい災いの風に季節が吹き飛ばされた事が恨めしい。

はじめた甲斐駒という高山の胸つきの登りに死ぬ程の思いでたどり着き翌日、仙丈岳のカーールという三〇〇〇米の高山の谷のひろがり、気を吞まれ渡る風の分量と、はてもなく拡がる天空の下を歩きながら、季節と時と月を背負っている実感に感動した山歩きであった。富士山が日本一の高さで二番は北岳三〇九二m。その頂に立つて、征服感というのでなく「生」の実感を身体に叩きつけた月と日の流れ。六十年を過ぎた今、思い返して胸が熱くなる。

見渡せば長年のコロナ騒ぎも、力弱まり、沈静気味のことだが、地球上のまがまがしき事が何とか消え行く中で、ウクライナの戦いが喉にささった骨のように疼く。月日がそんなに急ぐならば、地球という星に繰り返されて来た、様々の争いを時の流れという強大な力で、ウクライナの災いを吹き飛ばしてくれないものかと思う。

アメリカの南北戦争もフランス革命も月日が吹き抜けて行った遠い闇の中に消えている。古来日本の大宮人が台風のことを「野分」と呼んだ様に、ウクライナの広野に戦いの炎が消える野分の道に、ぼんやりと満開の櫻が一本立ち現れる幻影を見ている。その道ならば、又、月に連れられて再び歩けるのではないかと妄想の中に坐っている。



安藝 眞一
あき・しんいち／高知市

もう十月。どこかに飛び去る様に消えて行った九つの月。二百七十日余りの日々が、かき消す様に流れた日々を思い返す。正月のさんざめきが、とろりと流れて、梅の香が立ち現われるまでの、新春の息遣いは記憶にあるが、梅は咲いたか、桜はまだかと囁し立てる声に、一気に開花すると、季節ががらりと変り、人々も野も山も桜吹雪に酔い痴れる。月の変り目もそこまでで、酔いがさめたように、ぼんやりと日が刻む。

青葉が揺れても、新型コロナウイルスの風と、ウクライナの戦いの風、そこへ無理押しに「国葬」の騒ぎが繰り返されるだけに三ヶ月は吹っ飛んだように思う。この三つは押

BS放送の「山歩きトラバース」の番組をぼんやり眺める日々が多くなった。テレビの画面に写る山道を踏む足どりに、五十年前の自分の足を重ねている。あの頃はとり立てて、山好きというのでもなく、とてもベテランの山歩きというものでもなかったが、若さと足のおもむくままに、神奈川の丹沢とか、秩父の山々を歩きめぐらしているうちに、すっかり山の気配のとりこになり、休みの日を追っかけて山行きの夜行列車に乗るのが癖になっていた。初心者なのに無計画な夜の縦走に、歩き疲れて気を失いそうになったのに、南アルプスの北岳への五日間の縦走に友人を誘い、登山口へ登りは

年過ぎて、年とって、月日の速さに置き去りにされた愚痴を思い知るこのごろだが、考えて見れば月日の速さは今に始まったことではなくて、あの南アルプスの頂に立った朝風の日から、そろりと私の意識から足早に走り出していたという思いが押し寄せてくる朝がある。もうあの日の体力はなくなって登るなどはとんでもない事の日々ではあるが、あの日あの頂に立つて身体いっぱい吸い込んだ朝霧の冷気が、いまも残っていてそれを見届けた月日がそろりと身をか

あき・しんいち／高知市

キルギスタンから コンニチハ

85

ゴルビー世代に できること

氏原 名美

最初に覚えたロシア語は「スプートニク」だった。三歳か四歳の頃、保育園で年長の男の子たちが園庭のグロブジャングルジムに登っては「人工衛星」ということばとセットで叫んでいたから、「うちゅう」に飛んでいった丸い形をしたロケットのことだと思っていた。「同伴者」「道連れ」が本来の意味で、人生という旅の道連れである「伴侶」も意味すると知ったのは大学でロシア語を学んでからのことだ。

毎日新聞ウェブニュースに東京外国語大学の前田和泉教授に取材した記事があった。「もともと地盤が緩んでいるところに大雨が降った状態。このままでは甚大な災いにつながる」と、「ゴルビー世代」の教授は洪水や土砂崩れの危険に喩えて、ウ

クライナ侵攻が日本のロシア語教育に与えるダメージを心配している。記事では日本における冷戦期以降のロシア語の盛衰がわかりやすく簡潔にまとめられている。ガガーリンやゴルバチョフ人気が日本のロシア語学習者を増やしたこともあるが、総じてロシア語への関心は低調だった。ソ連に関する報道が専らアフガニスタン侵攻、大韓民国撃墜事件、チェルノブイリ事故、と暗澹たる出来事ばかりだったせいではないだろうか。

日本では、もともと英仏独の言語に比べてロシア語はマイナーな存在だ。大学でロシア語を学んだ七〇年代前半、ロシア語を専攻言語か第二外国語として学べる大学は数えるしかなかった。当時、北大はロシア語を第二外国語として選択できる数少ない大学の一つで、入学時にドイツ語、フランス語、ロシア語の三言語から第二外国語の選択希望を出すのだが、第二志望の欄にロシア語と書いたばかりに一年半も望まぬ外国語を学ぶ羽目になったと嘆く級友もいた。ロシア語の第一志望は少なすぎるので第二志望も放り込ま

なければクラスが成り立たないのだと後で聞いた。

そんな原体験からか、ロシア語離れの現状にゴルビー世代ほど悲観的ではない。現政権の終焉とともにまた陽が当たることもあると思っている。ウクライナ語熱に負けるかもしれないが。

ロシア国民はその多くが「軍事作戦」を黙認していたくせに、予備役の動員が部分的とは言え始まった途端、国境を越えようと長蛇の列、富裕層はチャーター機で既に脱出済みとか、日本語で報じられるニュースはロシアやロシアの人々に対してネガティブなものが目立つ。これではロシアへの反感や嫌悪感が募るばかりだ。

ボリス・アクーニンやリユドミラ・ウリツカヤが中心になってネット上で展開する「本当のロシア」と名付けた体制批判とウクライナ避難民支援の活動についてNHKが報道したのは四月、続報はない。独立系メディアはロシア国外での活動を余儀なくされているが、ウクライナ情勢だけでなく、ロシアに残ったジャーナリストたちが危険を冒して独裁の恐怖政治の中で生きるロシア市民の声をすくって毎日発信してい

る。しかし、どれもロシア語か英語でしか読めない。

日本語は中級に進んでも新聞が読めるとは限らないが、ロシア語は初級を無事にクリアできれば語彙さえおさえれば中級レベルでも報道記事の読解が可能だ。学生がこれだと思う記事を読出し、それを専門家や教師の訳文チェックを経て随時発信できるのはロシア語教育現場の間人だと思ふ。もちろん報道内容のファクトチェックは大事だが、日本語マスメディアが伝えきれないロシアの事情や市民の思いに触発されてロシア語を目指す新しい世代が生まれるかもしれない。取り組み価値があると思う。

ちなみに、ロシアへの留学は当分難しいかもしれないけれど、キルギスならロシア語もウクライナ語も今すぐ学び始めることができますよ。

氏原 名美

うじはら・なみ

キルギス共和国 ビシケク国立大学教授
越知町出身 北海道大学卒。

「キルギスタン」はキルギス共和国の通称の一つ。研究者によっては「クルグス共和国」「クルグズスタン」の表記を採用している。



ビシケク国立大学
東洋国際関係学部
日本語日本文学講座



ビシケク市内(キルギス日本語センター)

「夜間中学のこと」をもっと知ってほしい

細川英輔



9月4日(日)の午後、オーペピアで「高知県立高知国際中学校 夜間学級(夜間中学)」(以下「国際中夜間学級」)の学校(学級)説明会が開催されました。来年度の入学希望者の参加は2名だったようです。

「国際中夜間学級」は、昨年(2021年)4月に開校しました。昨年度は10名、今年度は4名の入学者がありました。「学校」は、高知駅から北東へ徒歩8分の旧「高知県立江の口特別支援学校」の校舎の3階(高知市新本町2丁目)に在ります。2022年度「国際中夜間学級」案内の入学要件の中には、①小学校や中学校を卒業していない方②中学校の学習内容を学び直したい方(不登校や病気等の理由で十分学校に通えなかった方)とあります。昼間の中学校の卒業証書を持っている方も入学できる「学校」なのです。現在は、1期生7名、2期生4名

の夜間中学生が、平日の午後5時30分から午後9時まで、昼間の中学校とおなじ教科(時間割)の学習をしています。もちろん、小学校の学習内容の学び直しもしますし、日本語の習得が十分でない外国の人たちには日本語の支援もします。

1966年11月、行政管理庁(現在の総務省)は文部省(現在の文部科学省)に「夜間中学早期廃止」を勧告します。「東京都荒川区立第九中学校 夜間学級」卒業生の高野雅夫さん(写真1列目中央)は「これは夜間中学への死刑宣告だ」と怒り、母校の在校生・卒業生・教員と制作した16ミリ証言映画「夜間中学生」を背負い、夜間中学廃止反対・増設を訴え「全国行脚」を始めます。

この「たった一人の運動」が実を結び、1969年6月、大阪に初めての夜間中学(大阪市立天王寺中学校 夜間学級)が開校したのです。



筆者も参加した8月27・28日の「第41回 夜間中学増設運動全国交流集会 in 岡山」より

2016年12月、国会での「機会確保法」成立を受けて、文部科学省は各都道府県・政令指定都市に少なくとも1校の夜間中学の開設を要請しました。

昨年度は高知県と徳島県に、今年度は香川県三豊市、北海道札幌市、神奈川県相模原市、福岡県福岡市に開校して、全国の公立夜間中学は15都道府県40校(県立2、市立31、区立7)になりました。来年度も4校が開校をめざしています。

このような状況の中で、夜間中学に関するマスコミ報道は確かに増えましたが、高知県では市民・県民のみならず、夜間中学で学び直しをしたいと思っている人たち、夜間中学を必要としている人たちに、まだまだ「高知の夜間中学のこと」が届いていません。

私の周りでも「夜間中学は高知市鴨部の高知国際中学校の中に在るのでしよう」とか「この前テレビで夜間中学

のことをやっていましたよね」(それは「朝倉夜間中学校」に関しての番組でした)という話を聞きます。その度に、もっと「国際中夜間学級のこと」を広めなければ、と思うのです。

歴史がある大阪の夜間中学の教員から「学校に来た入学希望者に『夜間中学のことをどうやって知りましたか?』と訊くと、8割ぐらいの人たちが『夜間中学生から聞きました』と答えます。ほとんどの人が『口コミ』で知ったんですよ」と聞いたことがあります。

この「飛鳥かわら版」読者の方で、周りに「夜間中学を必要としている人」が居るみなさんにお願います。その方の背中を優しくやさしく押してあげてほしいのです。その方たちにとって「学校という場所」は、とても「敷居(ハードル)」が高いところ」なのです。

2022年9月24日記



細川 英輔
ほそかわ えいすけ
高知県の夜間中学を育てる会世話人

元中学校教員・街角カウンセラー・ホルン愛好家
現在、音楽・人権教育・カウンセリング・夜間中学を中心に学びをふかめています。

ちくんの釣り日記



第9話

ギターを釣りにかえて

今回、なんと、1990年代に一世を風靡した名曲「夏の日の1993」のボーカルで元Classの日浦孝則さんをお招きしての釣行となりました! 日浦さんは私がお世話になっている業界の先輩とご友人という事で、その先輩から「日浦が最近釣りにハマってるらしく、全国ツアーの高知ライブの時に釣りに連れて行ってあげてよ!」ということでご一緒することになった次第です。

事前に高知でのライブにも

お伺いし、私は音楽はあまり詳しくはないのですが、元バンドマンのカメラマン「ハヤッシ」は「めっちゃいい」と感激して



YouTube チャンネル
あすか日記
チャンネル登録お願いします!



ライブ最高でした!!

いました。

釣りについては日程調整の結果、高知公演の後に岡山公演があり、終わり次第高知に戻ってから釣りをして、翌日には広島に行かれるという過密スケジュール、しかも小雨降る中で私も何とか大物を釣り上げていたのだと奮闘したのですが、釣果については本編をぜひご覧ください。

釣行後は、日浦さん懇意の高知市内の「寿司処 すず木」さんで釣った魚をアテに美味



第9話 ギターを釣りにかえて

今回の達成魚種 なし
28 100
達成



しいお酒を愉しむことができ、楽しい1日を過ごせました! 日浦さんは毎年ツアーで高知にも来高されているので、来年は大物を釣ってもらえるよう日々研鑽を積んでいきたいと思えます!

永野雅子 常務

日本印刷産業連合会

「功労賞」受賞

去る9月14日に東京で開催された記念式典で、当社の常務が功労賞を受賞しました。永年、四国グラフィックコミュニケーションズ工業組合(旧製版組合)の会計や、副理事長として、業界組織の運営を支えてきたことが評価されたようです。

まっことめでたいことです。

統括部長 川田道彦 記





「土佐寿司の本」 「まっことめでたい96歳」に続く 「伝えたい! 昭和の食卓 高知の味」

第3弾

御年96歳を迎えられた松崎淳子先生。
食への熱き思いや知識はとどまることを知りません。
第3弾となる本著で、味わい深く懐かしさも感じら
れる昭和の食卓、高知の味をぜひご堪能ください。



松崎 淳子
(まつぎき あつこ)

- 土佐伝統食研究会代表
- よい食生活をすすめるネットワーク会長
- 土佐学協会副会長
- こうち男女共同参画ポレール代表

1926年生まれ
昭和24年 高知県立女子専門学校生活科卒業
同年 高知女子大学助手となり、家政学部教授として調理学を主に専攻
平成4年 定年退職 名誉教授 (平成23年より高知県立大学に校名変更)
平成17年 瑞宝中綬章
平成19年 高知県文化賞
平成28年 文部科学大臣表彰 地域文化功労 (芸術文化)
令和2年 高知大賞
令和3年 男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰

松崎淳子「伝えたい! 昭和の食卓」高知の味
著者: 松崎 淳子 サイズ: A4判変型 144頁
定価: 1,500円 (税込)



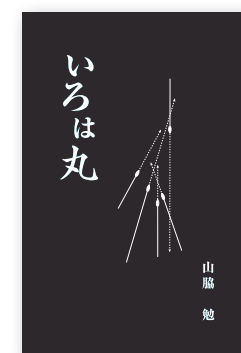
松崎淳子 伝えたい! 昭和の食卓 高知の味



血縁料理の組みもの

読んで美味しい 昭和の食卓

幕末、龍馬ら海援隊の乗ったいろは丸と紀伊藩の明光丸が衝突し、いろは丸が沈没するという事件がありました。その事件に関して考察した、渋谷雅之氏の著書『いろは丸始末』を読んだ著者は、渋谷氏の考えるいろは丸の事故の背景や顛末に疑問を感じました。その疑問を解決すべく、著者独自の視点で事件を考察していく一冊となっています。著者は、船舶の操縦免許を持ち、船や海の知識に長けておられます。船の動きが文章だけでなく、図でも細かく示されていて、深い見識と考察力に驚かされました。



B6判変型 171頁
著者: 山脇 勉
私家版

いろは丸



(株)飛鳥 営業部 山中

紹介物
飛鳥出版室



過疎が進み、空き家や耕作放棄地が目立つ中山間地域……。そんな山村で暮らす人々のもとに、著者は足繫く訪れ、その暮らしに耳を傾けてこられました。そんな著者だから撮影できた、山村のみなさんの生き生きとした表情、懐かしく愛しい生活風景に心打たれます。山村の集落の賑わいが小さくなっていく昨今、「田舎がもっと注目される日が来てほしい」そんな著者の願いも込められた温かい写真集となっています。若輩者の私ですが、拝見していて、田舎の祖母の家で過ごした夏休みの風景を思い出し、なんとも懐かしく恋しい気持ちになりました。私の特にお気に入りの頁は69頁です。ぜひ多くの方に山村でのあの日、あの場所、大切にしたい暮らしを感じていただきたいです。



A5判変型 136頁
著者: 本山 準一
定価: 1,800円 (税込)

山村日記
—いま、高知の山村は—
(2016年・2021年)

29歳で高知県展無鑑査となった宮地俊一郎さん、卒寿を迎えての初画文集。画集作りを思い立って、10年。若い頃からの作品を改めて見直し、作品集にするほどの意味があるのかと迷い、できた画集を前に語りたい同級生や画友達も少なくなつたと迷っていた宮地さんでしたが、「そう、コロナのこの機に90年も生きてきた、その証しとして自分史を作ってみよう。編集することをしよう」との思いにいたつたそうです。

北泰子さんに頂いた帯文には、「宮地俊一郎さんの絵は年齢を重ねるほどに、色彩が輝きを増し、画家の感じた光や風、空気感と共に、絵に込めた思いが伝わってくる。軽快なおしゃべりがそのままステキな文章になっていて……」と紹介されています。

宮地さんの作品は高知県立美術館などにも収蔵されています。



B5判変型 176頁
著者: 宮地 俊一郎
定価: 4,180円 (税込)

やぶつばき
宮地俊一郎 画文集

その ホームページ うちで作りましょうか？

簡単操作！
ブラウザ上で
そのまま編集！

**レスポンス
対応デザイン**
続々登場

WHAT!?

**ブログ
メールフォーム
EC ショップも
簡単設定！**



はここがスゴイ！

ホームページの知識は必要なし！初心者でも安心の簡単操作♪



**ダイレクト
編集**



**コンテンツ
パーツ**



**豊富な
デザイン**



**Google
ツール**



<https://a-tool.jp>



動画でCheck!
※動画はWEBサイト
でもご覧になれます。



**私たち、株式会社 飛鳥は
SDGs (持続可能な開発目標) に
取り組んでいます。**

実質再生可能なエネルギー100%の電力を
確保し、環境への配慮を実施しています。



「飛鳥かわら版」は、あらゆる世代の自分史・個人誌作りを応援しています。

飛鳥かわら版 第209号【晩秋号】 飛鳥出版室

●発行所：株式会社 飛鳥 ●発行人 永野 正将
●住所：〒780-0945 高知市本宮町65-6 ●電話：088-850-0588
●メール：info@asuka-net.jp ●ホームページ：https://www.asuka-net.jp